

桑名文化協

平成29年3月15日

第 41 号

桑名市文化協会
桑名市中央町2丁目37
TEL 24-1361
<http://bunkyo-kuwana.jp>

新春六華苑祭を終えて

音楽部門 伊藤 清美

(オカリナはなみずき)

前日から降り続いた雪が積もり積もって、1月15日、新春六華苑祭の朝は、一面真っ白な雪景色でした。とても美しい風景でしたが、外出となると、車は出せない、タクシーはつかまらない、バスも電車も遅れてる、という訳で、出演のできないメンバーもいました。

何とか、午前中に練習をし、六華苑まで20分ほど歩いていきました。雪の中に、足をズボズボ入れながらの行進も、おしゃべりしながらで、苦にはなりません。控室で準備しながら、お客様もこの雪では来れないだろうけど、来て下さる人があれば、精一杯の演奏をお届けしよう、と本番を待ちました。

雪化粧した六華苑は、とても幻想的で、静かに降り続く雪の気配の中、和館の和室でのオカリナ演奏は、気持ちも落ち着



き、しつとりとした音色を響かせることができたと思います。

思いがけず雪の日となり、イメージの違う、新春のさわやかで緩やかな曲を5曲、選んでいましたが、雪の降る中の陽だまりみたいな異空間が音楽で創られた気がして、「うん、これも悪くないな」と演奏しながら、和んでいました。私たちも演奏を楽しみ、お客様に興味を持って聴いていただけたことに、とても感謝しています。

この日、遠方から桑名観光を兼ねて、演奏を聴きに来て下さったお客様もあり、ありがたいことと思います。

オカリナの音は、素朴で、大きな音量が出ないため、マイク等を使用して、伴奏音源とオカリナの音を拡張しました。大勢でオカリナを演奏して響かせると、会場全体が音に包まれた感じになります。

これからも、私たちの演奏技術を磨いていき、少しでも心地良くと感じていただけるよう、日々、努力していきたいと思っています。

観光名所でもある六華苑と、音楽や芸能・美術などを組み合わせ、桑名ならで



雪の六華苑月釜

茶華香道部門 谷古 宗正

(遠州流)

平成29年1月中旬に日本列島を大寒波が襲い、1月14日、15日と開催された新春六華苑祭を直撃し、特に15日は大雪で桑名市内の交通機関が麻痺する程でした。私は15日開催の月釜茶会を担当していましたが、前日の準備では、時折、強く吹雪く事もありましたが、翌日の茶会に向けて準備は整えていました。

明けて15日、予想以上の大雪で車も出せない中、何とか六華苑まで辿り着き、茶会に向けて、いつもの如く準備を始めました。お点前担当者も何名か欠席との連絡を受けましたが、この天候では仕方のない所でしょう。

寄付には勅題「野」に因んだ先代家元紅心宗慶宗匠お好みの色紙を掛け、本席は酉年に因み、先々代家元其心庵宗明宗匠筆「鶴舞」の二大字でお客様をお迎えしました。足利義政お好みの高砂釜、長板飾りに朱手桶の水指、御本立鶴の茶碗、菓子器には鳳凰文の食籠を用い、御目出度い取り合わせでお

もてなしを致しました。

最低限の人員で開催された月釜茶会でしたが、お客様も条件は同じで、午前中は数名のみの御参会でした。午後からは時折、日が差す事もあり、お客様が続いてみえるようになりました。

この様な雪の日、席中は普段より一層静けさが増し、また、一席ごとのお客様が少ない事もあり、広間でのお茶会にも関わらず、まるで小間でのお茶会で、お客様と膝を突き合わせているかの様な感覚を抱きました。荒天の中、敢て御参会頂いたお客様はどのような方々なのか、と。ある方は、前売券をお求め頂いて楽しみにお待ち頂いていた方、いつも遠州流のお席を楽しみにして必ず御参会頂く方、新年最初の月釜茶会だからと御出で下さった方など、様々です。

新春六華苑祭での月釜で大雪が降ったというのかなり珍しいのでは無いでしょうか。雪の六華苑で至福の一期一会を楽しまれた事と思います。正に、真の数寄者が集った月釜茶会となりました。



市民芸術文化祭を終えて…

芸能I部門 杉野さおり

(愛琴会・ウイング)

去る11月12日、13日の2日間、桑名市民会館大ホールにおいて、桑名市民芸術文化祭「芸能の祭典」が開催されました。

そこで、桑名市で活動している大正琴「愛琴会」と「ウイング」が出演をさせていただきました。

この祭典に出演するにあたっての一番の醍醐味は、桑名市民会館大ホールで演奏できるということです。思い返せば、出演が決まり演奏当日に至る過程も、とても充実した日々となりました。みんなで衣装を選んだり、いい演奏をするために練習を重ねたりと、会の結束をさらに深める絶好の機会になったと思います。

さて、いざ本番、舞台ではまばゆいばかりのスポットライトを浴び、一たび演奏が始まると、全員が声の代わりに心で会話をしながら音をつないでいきます。

もちろん、普段とは異なる緊張から、間違えてしまうこともあるでしょう。

それでも、演奏終了後の安堵感と達成感は、言葉では言い表せない感動をもたらしてくれます。

このような積み重ねが、個々の技

術を育み、さらには会員相互の絆、会の結束を強固なものにしていくと感じています。

最後に、「芸能の祭典」を今後ますます発展させていくための一助となるよう頑張つてまいりますので、みなさまご指導のほどよろしくお願いたします。



桑名”小劇場”の可能性

演劇部門 相原千景

(演劇集団Cブレンド)

演劇部門は、市民芸術文化祭参加作品として、演劇集団Cブレンドが

メディアライヴ多目的ホールにてオリジナルコメディ『鬼サミット』を上演し、小さな子供から大人まで楽しんでいただける公演となった。

演劇部門の所属団体は、これまで多くの公演を、市民会館、コミュニティプラザなどのホールで開催してきた。しかし、桑名には現在、整備の整った環境の無い「小劇場」公演に、我々は魅力と可能性を感じている。

かつて劇団すがおは、アトリエ「七和小劇場」での公演を主としていた。演劇集団Cブレンドも、旗揚げ当時から、メディアライヴ多目的ホールに平台などを持ち込んで舞台客席を作り、「小劇場風」公演を行ってきた。また、近年盛り上げてきたのは、寺町通商店街まちの駅2階の「寺町特設劇場」だ。数年前より、すがお・Cブレンド・桑名演劇協会が、稽古場として借用していた旧店舗スペース。劇団すがおがかつて公演したのがきっかけとなり、Cブレンドも参加する若手劇団の合同ユニット「NEXTAGE」が小劇場として整備しはじめ、年一度のオムニバス公演を行っている。またCブレンド単独で月一回、紙芝居公演『おはなしのハコ』を定期開催している。今年度Cブレンドは、7月、10月、11月の公演を、

ここ寺町特設劇場をメインに行った。商店街はじめ、地域の皆さんに応援いただいて芝居を上演する実感の持てる会場である。また、新地の「きいろいろうち」でも、年2回公演を

行った。ここは、絵画などの展示、演奏会をはじめ、幅広く文化発信している個人ギャラリーで、劇場としては25席の部屋だが、音響照明、舞台装置を持ち込み、内装を活かした「きいろいろうちならではの」舞台となった。8月には劇団すがおが、スター21の、小さな舞台のある会議室に、音響照明機材を持ち込んで、ステージを中心に舞台を建て込み、本格的な演劇公演を行った。

小劇場公演は、お客様との距離が近く、ホールより一体感のある上演ができるという魅力がある。一方で、照明、音響、空調、電源など、設備が整っていないことは大きな問題であり、我々の努力だけでは解決できない課題も多い。しかし、少しずつではあるが形になりつつあるこの表現の場に、今後も挑戦し続けたい。



市民芸術文化祭を終えて

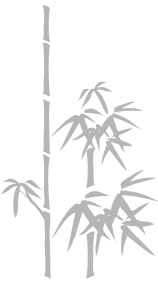
美術陶芸部門 森 工人
(陶 芸)

今回もくわなメディアライヴで開催された第25回市民芸術文化祭美術部門展の陶芸部門に個人として、また、団体としてろっこく陶芸教室の生徒の皆さんも出品させていただきました。

展覧会は今年も多くの方々にお越しいただきました。ありがとうございました。さらに各部門とも今年も意欲的な作品が展覧されていて、皆さんの日頃の活動の充実ぶりがかがえました。

とは言うもののここ数年少々物足りなさを感じることもあります。最近の美術界を見ると、新しい表現方法として技術や素材は多彩になってきています。なのでこれからもっと今ある部門の幅を広げるような、バラエティーに富んだ展示になつていくのが理想でしょう。そのための新しい会員の勧誘が欠かせません。簡単なことではありませんが、そもそも今のこの美術部門（あるいは文化協会）が魅力的に見られているのか、どう思われているのか、知ること何かヒントになるのかも知れません。

今後、新たな取り組みで充実した美術部門となるように知恵を出し合うことが大切です。



他文協を 参考にして

文学部門 担当副会長

安 田 治 三

旧年中は有難うございました。本年もよろしくお願い致します。更なる文化協会の充実に努力して参りたいと思います。

その為には、頭で考える事も必要ですが、近くの文化協会を参考にすることも効果的だと考えます。今まで四日市、菰野、東員など、色々とイベントに参加させていただきまして、その時、気付いた事も、少し報告させていただきたいと思ひます。

先ず最初には、どの団体も活気があつて圧倒される程、迫力がありました。

東員町では文化祭のオープンセレモニーがあり町長や役職の方々が臨席され、町ぐるみでPRができていた事、余興に若い娘さん達が元気良く、バトントワリングなど披露され、ムード満点、度肝を抜かれ、その後、展示会、茶席などを見せていただきました。

ここで一つ、文化祭のオープニングには市長様にも来ていただきたいし、行政も参加していただき、盛り

上げたいという事。

四日市市では、総会に、参加しましたが、先ずはNPOという組織、東員町が既にやっておられる形、それも桑名も検討できるのかな、という事、更に文化協会の催し物を協会構成員の発表の場である事は勿論ですが、市の他の催物に共催し連携できれば収客力の増大が計れる事。更に文化協会のPRと会の周知にはずみ期待できる事、ハイレベルの音楽会、バレエなどを見せていただきます。

また、いなべ市はFMなどを持ち防災とリンクさせ、文化的事業もアナウンスするなど、先駆的で、経済的にもそれを一般会員の活動の負担の軽減に結びつけている事など、仲々感心させられました。

他まだまだ沢山ありますが、活気のある所は、その地域にだけに活動を限定せず、都会、他府県にも遠征している事なども、見習う面も多々ありました。(当会にも有)

桑名市文化協会は歴史ある桑名市として、素養を持っています。それを礎にして、温古知新、更なる文化市として益々発展される事を期待したいと思ひます。一人の人間として個人の事を考えても、人とのつながりの協会としても、幸福な気持ちになつていただけると信じて、今後もアイデアやお力をいただきたいと思ひます。

今村前会長を偲んで

水谷 正

前会長故今村和子さんは、昨年11月8日に桑名市文化功労者として伊藤市長から表彰を受けられました。今村さんは桑名市文化協会の発足時から呼びかけ人として奔走され、現在の姿を実現させた真の功労者であることは誰もが認める事です。「日本語で歌う第九」を桑名で成功させて、その後の「シャンテクレール」に引き継がれ、長年音楽部門で活躍されたばかりでなく、他団体を含めた国際文化交流の中心的なお世話役にもなり、広くは岡田文化財団の理事として県下全体の文化振興にも助力されてきました。またケナフ栽培の普及などボランティアとして桑名地方の市民活動にも積極的にかわるなど、女性には稀な人脈と行動力を駆使して、地域全般の活動を展開されました。

から、在りし日のお母上の回想と表彰への御礼のごあいさつをいただきました。今となつてはご存命中にこの榮譽を受けていただきたかったという後悔を交えつつ、改めて前会長のご冥福をお祈りし、ご遺族のご健勝を願っております。



(新春懇親会でのご長男今村康浩様と表彰状)

新春懇親会

演劇部門 石垣 正司

25周年を実りある年に！

朝から降り続く雪をものともせず、会員相互の親睦を図る貴重な催し「新春懇親会」に集まった大勢の会員の前、森副会長の開会宣言に続いて、荒木会長から「今年は、桑名市文化協会結成25周年の記念すべき年にある

たります。文化協会では、これまでに行われた5年目ごとの節目の記念事業を今回も予定しています。詳細な事は今後決めてまいります。昨年行われた世界ジュニアサミット、石取祭の世界遺産登録のような画期的な事業を引き継ぐ形で実施出来ればいいなあと思っています。また、桑名市政の重点項目にも文化の向上が取り上げられています。桑名市の財政は厳しく、今までのような助成は期待出来ませんが、会員の皆さんのご努力により桑名市の文化のさらなる発展を目指して行きましょう。」との25周年に向けて力強い挨拶がありました。

そして、来賓を代表して水谷桑名市総務部長様からは「桑名市の文化行政への協力依頼と文化協会の発展を期待します。」との言葉をいただきました。



引き続き、桑名市文化功労者賞を受賞された故今村和子前文化協会会長と三重県文化奨励賞を受賞された安田隆亮さんの功績が荒木会長から紹介があり、今村さんのご子息康浩様より「文化は人の生活を豊かにするとの前会長の信念のご披露と文化協会会員の努力によって文化豊かな国になるよう祈っています。」のお礼の言葉、安田さんからは「受賞を励みにして、ますます精進していきたい。」との決意表明がありました。

愛琴会の大正琴、ハーモニカ・モニカーズの演奏、紫会の西川流舞踊、宮永洋子箏曲・三弦教室の演奏の4団体のすばらしいアトラクションがありました。例年のことながら歓談の方に花が咲き演じていただいた方々には申し訳なく思いました。

平成二十九年 月釜・華道展日程表

開催時間… 月釜 午前10時～午後3時30分

華道展 土曜日 午後1時～午後5時 日曜日 午前10時～午後4時

開催場所… 六華苑 離れ屋（茶会） 番蔵棟（華道展）

呈茶券… 前売券800円（入苑料込み・茶道各流派師範宅で販売）

当日券600円（入苑料別）

※4月15日（土）は「県民の日」を記念して六華苑の入苑は無料です。

※お問い合わせは桑名市文化協会事務局（文化課内 TEL24-1361）まで

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成29年 4月15日（土）	表千家流	小原流
4月16日（日）		小原流
5月20日（土）		MOA山月光輪花
5月21日（日）	裏千家	MOA山月光輪花
6月17日（土）		石田流
6月18日（日）	煎茶松風流	石田流
9月16日（土）		竹真流
9月17日（日）	表千家流	竹真流
10月15日（日）	遠州流	休会
平成30年 1月21日（日）	裏千家	休会
2月17日（土）		華道家元池坊
2月18日（日）	煎茶松風流	華道家元池坊
3月17日（土）		草月流
3月18日（日）	遠州流	草月流

桑名市文化協会育成補助金 募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては平成29年度の育成補助金募集案内をいたします。

○補助対象団体等

文化協会の個人及び団体。ただし、平成29年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍1年以上で、平成27年、28年に補助を受けていない会員。

○補助の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

○応募の方法

文化協会事務局から送付された申請書に記入し、同事務局へ申請する。

○応募受付期間

平成29年3月1日（水）

～4月5日（水）

（平成29年4月1日～）

平成30年3月31日までの

実施事業に限る）

○申請の制限

平成27年度・28年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

○お問い合わせ

桑名市文化協会事務局
（桑名市 文化課内）

TEL 0594-24-1361



文協文芸

詩

〈現代詩やまぶき〉

プーシキンの想い 安田 治 三

旅の目的はプーシキンではなかった
灰色の空は見慣れているのに
柔らかな光を感じる朝だった
モスクワの冬は厳しい
少年にとって毎日付度のないのは当たり前
贅沢に慣れ、飢えも空腹も理解でき
ないでいる

そんなレールを進んだ先に
次の駅に着くことは
何の疑いもなく、務めた外務院も退
屈だった

ある日街角で
下水から這い上がったばかりのように
汚れた衣服に身をまとい
全身から異臭を放ったジプシーの少
女を見た

近寄り難いがしかし
自由の手形を得ているように
彼女の眼差しは崇高だった

比較と偏向の自分の物差し
マイノリティーに価値と憧れを抱く自分
そしてその積み重ねが成長と思っていた
ナタリヤと暮らしてあらためて知っ
た窮乏と不幸から
かつての当たり前を今更ながら憧憬する
ジプシーの少女の無言の言葉は
それはあの眼差しだった

傍らで妻の寝息を聞きながら
少女の澄み切った瞳が

あれは自分だったのだと
不憫で涙が止まらない

ようやく世界が見えかけて来た
しかしそれは悟りではなかった

ダンテスとの決闘は

持ち前の正義感がそれを許さない不器用者の
言い換えでしかない

どうしても後へ引けない自分自身が
この肉体を傷つけてしまったのだ

やっと自信と道標を得た矢先
自らが人生を壊してしまったのだ

療養の毎日が続く筈だった

寝ても覚めても悔恨の念が止まらない

天井はモスクワの空の色
少年時代の灰色の空

ペテルブルグの港に凍てつくように
寄り添う小さな漁船に

友といつかはと大海を夢見た

大海原へ出てみたかった

足を引きずりながら猛吹雪の中を
微かに残る生気が

今失われてゆく

雪よ降れ、風よ吹け

シベリアに

ボルジノに
ペテルブルグに

雪よ降れ、風よ吹け

ロシアの大地に

羨望の大海原に

2014年クレムリンに雪が降る

ブルーベリー 堀川 孝子

あまりに空が真つ青だから

私は逃げ場をなくしたねずみ

あまりに太陽がまぶしすぎるから

一時も早く地中に潜りたいもぐら

光は地上に満ち

大空は透明な藍を深めて

ほんとうはあるものまでも

見えなくしている

世界のあちこちで

ミサイルが飛び交い

硝煙が立ち昇っている

そんな残像が消えないまま

晴天の真つ只中にいて

落ち着けない

雲が空を覆い

明るさにくらんだ目を閉じ

耳を澄ませば

雑踏の中から

悲鳴が聴こえてくるような気がする

かつて青空からこぼれ落ちた

ブルーベリーは

大陸に移住した人々の命を繋いでき

たが

今日、砲弾に逃げ惑う人々に

降り注ぐ蒼い実は

家を焼き濃い影を落とす

青空が震えている

戦火を消す雨雲は

はるか遠く海の上に



夢追い人 岡本 妙子



ヒールの高さは女のプライド
と言った人は

時々年齢を忘れている

いつもスタイルブックを傍らに

買えそうにない高価な服を見つめ

ため息をつく

ヒールが階段にひっかかって

鎖骨を折ったことも忘れたのか

今日もとんでもないハイヒールを履

いて

こつこつと早足でやってくる

ほんの少し前は

大病をして入院していたが

ファッション誌を枕元に

鏡とにらめっこをして

弱音は一度も吐かなかった

変りゆく季節を見つめ

たった一度だけ

大きなため息をついたのを知っている

女のプライドの音をたて

不思議な国に住んでいる人は

子供の頃から雲が好き

そして雲に似た綿菓子が好きで

祭りの屋台で決まって綿菓子を買い

その子供もまた綿菓子が大好きで

取り合いをして

じゃれ合う姿は

みんな丸めて夢追い人なのか

へくわな川柳会

●会員 近詠

百均の指輪で誓う愛もある
無農薬の野菜が好きで過疎に住む

梶 泰栄

棚ぼたの運を持っているお人良し
八十才過ぎても止めぬ厚化粧

伊藤 正則

どん底で起死回生の万馬券
薄氷の二番煎じで受けがいい

清水 健吾

百合の根が豊洲の土壌掘り起こす
万札を嫌う財布を持ち歩く

水谷 真

人並みに孫と散歩の手をつなぐ
紅梅がメジロを寄せて妻を呼ぶ

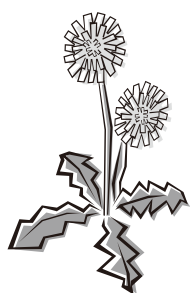
真田 五市

吊り橋で計算通り抱きつかれ
墓石のバーゲンばかり嫁は見せ

木原 広志

淋しさを隠す男の心意気
生き抜いた女の背に風が風ぐ

森 繁生



私とラジオ・テレビ

木原 広志

CBC荒せんのラジオがいちバン
は平成4年3月、幕を閉じた。
縁あってこの番組の「川柳選評」
を4年半担当をした。

テーブルの上の赤ランプが点くと
感度がいいから小さな音も拾うので、
ディレクター殿から注意、アナウン
サーが何を問いかけても即座に返事
をして下さいと重ねて注意をされる。
えらいことになったと悔いても放送
はスタート。

あらかじめ番組へいただいた川柳
作品へ私と担当アナウンサーが選句
して電波へのせる。当然アナと意見
をのべあうことになる。向こうはプ
ロだから的を突いた話をする。私の
方は赤ランプが苦になって仕方がな
い。

しかし後で考えてみるとこの番組
出演は私に一つの大きなものを呉れ
た。今でも荒川アナからお手紙をい
ただくが、番組へ参加した所産だと
感謝している。

番組中、リスナー参加の海外旅行
にも参加、パリやニューヨークで「川
柳大会」まで開いていた。

この番組へ出ている頃、友人とバ
スツアーに出掛けた。たまたまこの
ツアーで、CBCテレビのディレク
ターと乗り合わせ、今度はCBCテ
レビの「あしたふたたび」へ出演を

依頼される。

共演者が女優と聞いて舞い上がっ
たところ、「木原さんは川柳ですから
落語家さんにしました」とディレク
ター殿の言。何うところ、落語家は
落語家でも上方落語の大物、桂小文
枝師匠と告げられた。

番組では「近江の水郷めぐり」
師匠と話をしながら回り、琵琶湖
を見下す高台で私が持参した野点籠
で抹茶を一服飲んでいただく趣向。
その服装は師匠に合わせて私も和服
を着ることになる。

前夜は師匠とお弟子さん二人を加
えて米原のホテルへ泊る。

ロケは大過なく終った。

まさかラジオはともかくテレビま
で出演。今もこのビデオは家族にも
見せていない。

この頃、中京テレビが俳人を出演
させようとして失敗、私の仲間の柳
人へ話が向けられた。その仲間が話
をこわり、中京テレビから私のと
ころへ出演の依頼。

場所は、木曽三川公園でお笑いの
キャイーンと出演、川柳で番組を作
る企だて。

女性の柳人二人も加えてほしい希
望でテレビへ出たいおばさんを二人
選んで準備完了。

この時は当日、染筆した色紙をさ
し上げて、キャイーン二人のサイ
ン色紙をいただいた。

ロケは予定通りすすみ、解散。
無謀にもテレビにまで出演したが

いい経験になった。

特にディレクター氏との対話が大
いに参考になった。

柳人は文章が書けなくてはならな
い。加えて話が出来なくてはならな
い。句の巧いのは当然だ。

とは大先輩の言。私の周りに高齢
者は沢山いるが、大半はお喋りは出
来ても、お話が出来ない老人が多い。
ラジオ、テレビ加えて新聞社の人
とお会いして痛感するのは全ての人
が、お喋りでなくお話が出来ること
である。

老人のくだらないお喋りには、う
んざりさせられる。

余談だが今の老人は毛筆が持てな
い。

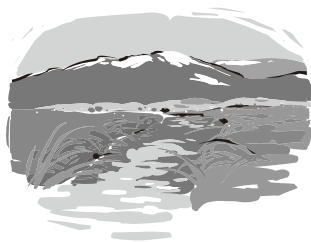
毛筆は日本の文化だが俳人も柳人
も毛筆を握らなくなった。

今私たちは川柳サークルで画賛を
はじめた。

色紙へ絵を描き、余白へ句を入れ
るもので評判がいい。

俳句はともかく川柳は習っていな
い字の方が光るそう。

昔の人は、
自分で字を
作ったそうだ。
なまじ習うと
習った字しか
書けないとは
大先輩の言葉。



短歌

〈金雀枝短歌社〉

● 会員 近詠

ふる里の景色の変わり田の中の広き
道路をトラック走る

赤堀眞美子

朝日差す揺らぐカーテンに鳥の影
ピラカンサの実少なくなりゆく

池田三津子

神無月赤い羽根にて始まりぬ小さき
善意に真心こめる

石川 房子

大木に黄の色映ゆる金木犀枝えだの
小花朝陽受けいる

石川富士子

秋晴れに五人曾孫の運動会気持ち走
らせ坂登りゆく

伊藤さくえ

庭占めて色さまざまの百日草夏を咲
き継ぐ強さ好もし

伊藤 紗代

一日に十食限定の精進料理ほっこり
旨し無花果天ぷら

伊藤美咲子

草引きをする手の先にひと群の水引
草の紅をともしり

岩花キミ代

相聞歌付き絵はがきに「元気でね」
と恋など知らぬ孫より届く

上田 順子

掛り付けの医院へと行く百円バス
クッションの悪さ我慢せねばと

海老原秀世

秋風を軽くないなして黄ばむ葉と柿の
実熟し秋の深まる

大平 千歳

新聞もテレビも報ずる認知症見過ご
すことのできなくなりぬ

岡本 節子

葦の会三八五回を終と決め霜月五日
佳き日に集ふ

加藤よしみ

週二度の介護の散歩はヘルパーと野
山の散策吾れの楽しみ

川村久美子

東北へ友は発ちたり夕濠に水脈の幾
すじ鴨の到来

黒田美代子

いくたびもぐつとこらえて大橋に挑
む五歳児 天晴の空

後藤 明美

地方巡業の若衆の打つ寄席太鼓高く
響きて秋空に抜けゆく

近藤 光子

観月会の終わりに後に望月は顔をの
ぞかせ菩薩を照らす

斎田 眞希

柿の実のまだ色づかず木犀の二度花
咲きて庭の華やぐ

佐竹貴代子

秋空に黄色い電車右に見て歩み進め
し大豆畑続く

四方千枝子

いつもなら野球中継聞かぬ夫カープ
の得点で手をたたきおり

鈴木美恵子

貧窮問答歌わが身に引き寄せ方代の
さりげなき歌いくたびも読む

三田香代子

老杉の洞の小さき石仏をろがみ高野
の奥の院ゆく

高橋 典子

黒木鳥居に斜めに差せる日の光透き
通りをり斎宮の跡

高橋フクミ

目交をふらふら過ぐる黒き影密かに
鳴きて秋の蚊来たり

田中 流石

老二人猫一匹の雨の夜はテレビのク
イズに一時笑ふ

立松 鈴子

老人のバイオリズムを狂はせて気温
ちぐはぐ過ぎゆく九月

千種てい子

秋の色は葉末より来る風に揺る風船
葛をたなごころに受く

内藤みち子

子の家に子猫来たらしいそいと夫
と離れたち面会に行く

中野 満代

飼主を見上げて犬は止まりたり紐を
ぐいとひかれて黄信号を行く

中村 里子

佐渡の空飛ぶ朱鷺みたさに船酔いを
覚悟の二時間フェリーの客に

南部 信子

緑色の濃淡のみの山峡を切り取り額
に入れてみたしも

西塚 郁代

兄の亡きあとを引き継ぐ畑仕事丹波
の地より義姉の黒豆

西野美津恵

高岡の古城の森に秋の日さして赤き
裳の裾ゆらして歩く

西羽加代子

世捨ての身急ぐはなきもの一端に庭
師遅ると天気を託つ

丹羽 孝之

沢庵のにはひの残る実家蔵にさがせ
り母の法事の湯のみ

服部ふさ子

順延の今日も雲行き危うきに親子玉
入れの喚声あがる

水谷 郁子

朝方の夢に來たりて逝きし母が月見
の宴の花活け始む

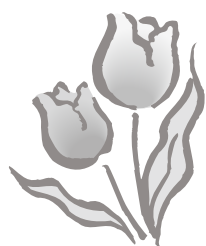
水谷貴美子

淡黄のオクラの様な花の咲き夕に落
つるローゼルの花

三林 牧子

雑草という名の草はなしという小さ
きものにもアイデンティティー

宮原 恒子



〈楓・山城顕彰短歌〉

●小・中学生作品

暑いなつ真つ赤なスイカのたねとばしひよつとこ顔の真剣勝負

小六 川上 友佳

あいさつもきれいなやまがおみおくりいきはあさもやかえりはゆうやけ

小六 廣瀬ななみ

6年間お世話になったランドセル気づかぬうちに小さくなった

小六 竹下 心

りんりんと風鈴ならす風さんは桑名の町の見えない指揮者

小六 多賀 朱音

万緑の木々の上には青空と入道雲の三色パレット

小六 湯浅 桜子

放送で一人仕事をもちくとお昼ご飯もボッチで食べる

小六 内田 航暉

ついに来たかかかってこいや夏休み楽しむ準備はもうできている

小六 伊藤日菜乃

父さんと歩きつづけて三時間やっと着いたぞ多度のいただき

小六 吉永千太郎

父さんと犬の散歩で見つけたよ四葉クローバーきょうは幸せ

小六 福地 淳平

夏が来た祖父の畑の夏野菜今年もきゅうりが食べ放題

小六 渡邊 太晴

フルートをにぎる右手があつく本番までのわずかな時間

中二 伊藤 優寿

おかえりとあそびたそうにかけてくおとうとの声せみより元気

中二 栗田 葉穂

かんたんに暗唱できると思ってた枕草子がおぼえられない

中二 加藤辰之介

傘がない持ってきたはずの傘がない雨にうたれてかけぬける坂

中二 多賀 心映

妹が僕の背丈においていた慌てふためき牛乳一気

中二 高橋 太陽

花火咲き夜空をいろどる祭りの日あなたのそばに誰がいますか

中二 八倉巻心海

試合前ペアと2人で話し合い高まっていく気合と気温

中二 葛山 涼

古稀祝い家族が集う初夏の午後微笑む祖母の涙ひとすじ

中二 早川 愛海

宿題におわれる日々がまた続く夏休みだけセミになりたい

中二 森 唯華

広がる髪ついには来たかと梅雨の時期増えていくのは髪止めの数

中二 唯見 友菜

〈個人会員 松井久雄〉

近詠25首

〈買い物〉

★遙々と比島より来しバナナ甘くて美味しい今日も買いにゆく

★苺フェア愛知県産あきひめで福岡あまおうとれたて苺

★コーヒーにパンに卵に昼食は苺もそえて老いても夫婦

★秋田駅のとり玉井求めたり駅弁フェア今日の催し

★食べ物なんでも揃う大店舗今日も買い物花よりだんご

〈草ぼうぼう〉

★大府市の特産葡萄賜いたり瀬戸ジャイアンツネーミングよし

★種なしの葡萄おいしいまるごに食べゆく我と皮むく妻と

★わが庭の好き勝手に延びる草ぼうぼうなれど絵になるのでは

★絵葉書は竹山先生洗礼の田平教会歌友のくださる

★バナナにも値段のふしぎ比島よりもエクアドル産百円安い

〈南瓜〉

★朝ごとに南瓜のしべをたどりゆく南瓜笑っているかもしれぬ

★蒔かぬのに南瓜ひろがり庭の主雌花がつつり交配を待つ

★太つちよの胡瓜できたり見落としを許し給えな商品でなし

★紫紺色の茄子実りたり食べ方を図書館に見る茄子料理本

★求めたる福を巻きこむ恵方巻人並みに食べ福呼びこまん

〈紅い蔵〉

★水彩のスケッチ教室のどやかな諸戸庭園春風うらら

★三棟の絵心をひく紅い蔵米蔵として使用されしと

★諸戸さんの庭園に建つ紅い蔵それを描こうわが市民展

★わが庭のつつじに被いかぶさりて茂る蔓草ひきちぎりゆく

★これほどに茂る蔓草気づかず猛暑の夏を過ごしていたか

★栗南瓜つつじの樹にも昇りゆき実を成らせおりこれは憎めず

〈三・一一〉

★除染ごみ三十年後に県外へ出せるかどうか人はとまどう

★ダイバーが海中搜索しておりぬ身じろぎもせず人は見つめる

★日の丸を中ほどに掲げこのとしも痛みを分かつ三・一一

★公民館 福祉会館 市役所に半旗はためくみたま安かれ



桑名地名あれこれ(16)

社会文化部門

(個人会員)

大河内 浩

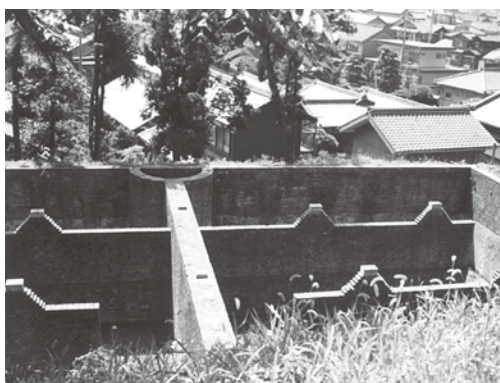
尾野山、

桑名の豪商諸戸清六翁の別邸であつた諸戸徳成邸の去就で尾野山が脚光を浴びています。桑名高等学校校歌にも「ここ尾野山の丘の上」とありますが、尾野山は元来の地名ではなく、東方村字上之越の一角でした。徳成邸の名の由来となつた東方村字徳成は、上之越の西に連なる一帯です。

日本書紀に『白鳳元年(六七二)六月天武天皇桑名郡家に宿り給う朝明郡迹太川で禊祓いし天照皇大御神を望拝し武運長久を祈る』という記述があり、桑名には新屋敷の天武天皇御足洗井や本願寺村の天武天皇社など天武天皇ゆかりの地があります。伝説によると天武天皇がその夜に夢で見た巨星は、皇祖の神勅であると言ふやいなや忿怒の猛獣となり天を西南方向へ飛行して地上に落下、その地は石占(いしうら)Ⅱ現在の桑名市上野)猛獣の尾がちぎれて落下した所は尾の山と俗称されるようになりました。さらに南北朝時代にはこの地に小野山左近という武将が住み隣接の矢田村・本願寺村地内には小野山という字地名が残ります。

この尾の山一角に慶応四年(一八六八)旧桑名藩江戸藩邸や越後柏崎からの藩士帰桑に伴い、長屋12棟が建てられてから尾野山市街として独立しました。現在の大成地区尾野山自治会域です。

忿怒の猛獣が落下した石占は石取祭の発祥地であるという伝説もあります。石取祭で有名な桑名神社のうちの一座か、横に並ぶ中臣神社の旧地と伝えられ、中臣神社の殿内に奈良の春日大社から永仁四年(一二九六)に春日四柱神を勧請したときも上野村の二人が供奉し、石取祭とゆかりの地です。



諸戸徳成邸と同じく益世地区の尾野山南自治会域にある県指定史跡の諸戸水道貯水池遺構

平成28年度

新入会員の紹介

(敬称略)

(3月1日現在までに入会の会員)

○ニットカフェやき

代表 小島やよい(趣味教養・編物)

○琴好聖会

代表 熊本 道(芸能Ⅰ・大正琴)

○たんぽぽ

代表 加藤みつき(音楽・カラオケ)

○早川 里美

個人(美術・孔版画)

○宮田 英恵

個人(音楽・ヴァイオリン)

○伊藤 智之

個人(美術・洋画)

第25回総会のご案内

(日時)

平成29年5月7日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

(会場)

桑名市中央公民館 大研修室

※各部門から代議員の選出をしていただきます。



春寒料峭のみぎり桑名文協第41号をお届けさせていただきます。

平成28年度も終わって行きますが、ジュニアサミットの開催や石取祭祭車行事のユネスコ遺産登録など桑名が広く発信された一年でした。桑名市文化協会は平成5年創立ですので本年は四半世紀の節目です。桑名の文化をこよなく愛する皆様方の思いが一つになって、今後も永く活動が続いて行くことを切に願っております。

(大河内 浩)



広報担当副会長	丹羽 宗俊
広報担当副会長	安田 治三
委員 文学部門	上田 順子
美術部門	安田 誠
音楽部門	石川 郁子
芸能Ⅰ部門	村瀬 昌子
芸能Ⅱ部門	山田 岳峰
芸能Ⅲ部門	伊藤 好子
演劇部門	内山 亜美
社会文化部門	大河内 浩
茶華香道部門	三浦 幸子
趣味教養部門	加藤 誠